

# 体育科における授業づくりのポイント

## 1 体育科における主眼について

体育科の主眼は、二つの観点から書きます。主に、一つは、内容【知識及び技能】、二つは、その内容を捉えるための学び方【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

### ○主眼の作り方の例

主眼 1 ○○（その運動特有の楽しさ）を味わうために、～（身に付ける動き）ができるようにする。※主に技能  
2 ～（問題となる運動場面）に着目し、～（課題となる動き）を考え、～（表現方法）で伝えることができるようにする。

### 【第6学年単元「(ボール運動ゴール型) バasketボール (4/7時)」の主眼1の例】

#### (1) 解説書を読んで内容を重点化する

- ① 「E ボール運動(1)ア」(小学校学習指導要領 解説 140 ページ部抜粋) からゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをする。
- ② (1)ア【例示】(小学校学習指導要領 解説 141 ページ部抜粋) からゴール型のボール操作やボールを持たないときの動きを理解すること。  
⇒例えば、パス、ドリブル、シュートなどのボール操作や、攻めと守りについてのボールを持たないときの動きといった「・」で項立てである動きのこと。

#### 【重点化した内容】

パス、ドリブル、シュートのボール操作や、攻めと守りについてのボールを持たないときの動きをゲーム中に行うことができるようにする。

#### (2) 解説書の前後の学年の項目と比べて内容を焦点化する

- ① **ボール操作（ここでは、パスの動きを例に）を焦点化する**  

【中学年】 味方にパスを出すこと	【高学年】 <u>近くにいるフリーの味方にパスを出すこと</u>	【中学校第1・第2学年】 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと
---------------------	-------------------------------------	---------------------------------------

より得点につながる味方が誰なのかの判断を求められる所や判断基準に高まりがある。
- ② **ボールを持たないときの動きを焦点化する**  

【中学年】 ボール保持者と自分の間に <u>守る者がいない空間に移動すること</u>	【高学年】 ボール保持者と自己の間に <u>守備者が入らないように移動すること</u>	【中学校第1・第2学年】 パスを受けるために、ゴール前の <u>空いている場所に動くこと</u>
---	--	---

より得点につながる場所がどこなのかの判断を求められる所や判断基準に高まりがある。

#### 【焦点化した内容】

近くにいるフリーの味方にパスを出したりボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動したりというような、プレーを成功させる状況判断を行うことができるようにする。

#### (3) 単元内の運動の高まりを計画して内容を具体化する

- ① **動きの高まりを具体化する**  

【前時】 近くにいるフリーの味方に <u>パスを出すこと</u>	【本時】 ボール保持者と自己の間に <u>守備者が入らないように移動すること</u>	【次時】 相手に捕られない位置で <u>ドリブルをすること</u>
-------------------------------------	---	--------------------------------------
- ② **場（ルール）の変容を具体化する**  

【前時】 攻め3人対守り1人	【本時】 攻め3人対守り2人に変更	【次時】 ドリブルができるフリーゾーンの設置
-------------------	----------------------	---------------------------

#### 【具体化した主眼】

得点の喜びを味わうために、受け手が自分とボール保持者の間に相手が重ならない場所へ素早く走り出しフリーになるまで移動し続けて、パスされたボールを捕ることでシュートにつなぐことができるようにする。

## 2 体育科における単元指導計画について

体育科の単元指導計画では、試しの活動を行い、運動への思いや願いをもつ「つかむ」段階、場をつくり変えたり、練習を繰り返し行ったりして、運動を高めていく「高める」段階、動きの高まりや学び方のよさを実感する「味わう」段階といった三つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例（第6学年題材「Basketボール」）
つかむ	既習の動きで試しの活動を行い、運動への思いや願いをもつ。	パスやシュート、ドリブルのボール操作やボールを持たない動きでコート上のゲームを行い、チームの動きを高め、得点を増やす願いをもつ。
高める	場をつくり変えた運動に挑戦し、練習して、動きの量を増やしたり、質を高めたりする。	攻めが有利になるようにルールを工夫したゲームに挑戦し、より成功率の高いシュートの仕方やボールのつなぎ方を身に付ける。
味わう	単元初めの動きと終末の動きを比較し、動きの高まりや学び方のよさを味わう。	初めの得意な子供のみが攻めるゲームと終末のチームで丸となって攻めるゲームを比較し、チームの動きや個人の動きの高まりを味わい、ルールをつくり変えて運動するよさをつなげる。

### 3 体育科における一単位時間の学習過程について（高める段階において）

体育科の学習過程では、運動への思いや願いを明確にし、運動を行う上での困難さ（問題）、解消するための動き（課題）、動きを身に付けるための場や練習方法（解決方法）を考えながら動きを高め、動きの高まりを味わう問題解決的な学習過程を大切にします。

#### ○一単位時間の学習過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 本単元の運動特有の楽しさへの思いや願いから、本時のめあてをもつ。</p> <p>前の時間で〇〇だったから、もっと□□ができるようになりたい。</p> <p>(本時のめあて) □□ができるようになろう。</p>	<p>○本時のめあてをもつことができるように、保存していた前時の映像を視聴する場を設定する。</p>
展開	<p>2 場づくりを工夫した運動に挑戦し、本時習得を目指す動きを高める。</p> <p>(1) 試しの運動に挑戦し、問題や課題を把握し、解決方法の見通しをもつ。</p> <p><b>問題場面に焦点を当てる 試しの運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・□□が上手くいかない。【問題】</li> <li>・〇〇のように動くことができそう。【課題】</li> <li>・△△の練習をすると〇〇が身に付きそう。【解決方法】</li> </ul> <p>(2) 交流したり、練習したりして、動きを高める。</p> <p><b>交流・練習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分(達)なら、〇〇のように動くといね。</li> <li>・〇〇の動きができていよ。</li> </ul> <p>(3) 動きのポイントについて助言し合いながら、主運動に挑戦する。</p> <p><b>高めた動きを発揮する主運動</b></p> <p>〇〇の動きで、□□(思いや願い)をできた。</p> <p>(本時のまとめ) 〇〇のような動きをすると、□□(思いや願い)をできる。</p>	<p>○課題の動きに着目できるように、提示した問題場面の映像を基に問題の解決を交流する場を設定する。</p> <p>○よりよい動きを共有することができるように、学習者用端末の動画や動きを描き表した図を編集し、目指す動きを交流する場を設定する。</p> <p>○課題の動きを理解することができるように、モデルを紹介する場を設定する。</p> <p>○練習で高めた動きを主運動で発揮することができるように、運動中に助言や称賛を積極的に行う。</p>
終末	<p>3 本時の学びについて振り返り、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇の動きができるようになった。【知識・技能】</li> <li>・友達とよい動きについて伝え合うことができた。【思考・判断・表現】</li> <li>・きまりを守って運動することができた。【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>	<p>○本時の学びを振り返ることができるように、目標の三つの柱を振り返りの観点として示す。</p>

### 4 体育科における ICT の活用について

体育科では、自分や他者の「動き」を学習履歴として蓄積していきます。そして、この学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 提示機能…目指す動きや課題の動きを視聴し、目標や課題を把握することができるようにする。
- 編集機能…コート図や画像に動きそのものや目印を線で書き入れ、動きの見通しをもつことができるようにする。
- 保存機能…過去と現在や自他の動きを比較し、動きの変容を確かめることができるようにする。

#### ○ICT の活用の具体例

提示機能	編集機能	保存機能
<p>導入段階で、習得を目指す技のモデル動画を視聴し、技についての目標をもつことができるようにする。</p> 	<p>展開段階で、画像に足をどこまで上げるかの目印を線で書き入れ、目指す動きについての見通しをもつことができるようにする。</p> 	<p>終末段階で、試しの運動の動きと主運動の動きを比較し、動きの高まりを確かめることができるようにする。</p> 